

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
心豊かにつながり、夢と勇気を持って挑戦する春日部っ子 ～みつめ、みいだし、みらいを創る～ ・学ぶ感動、集う楽しさ、働く喜びのある学校 ・保護者・地域社会の期待に応え信頼される学校 ・地域の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動を大切にす学校	・授業のUD化を基盤に「わかった」「できた」を実感し、深い学びを実現する授業づくり ・「自己肯定感」「自己有用感」「自尊感情」の育成による安心して学べる環境づくり ・児童・保護者・地域の願いに期待に応える地域とともにある学校づくり ・はるべの郷の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動の推進

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	危機管理	○新型コロナウイルス感染拡大防止のための適切な対応と指導 ○関係機関と連携した学校防災体制の見直しと強化 ○いじめの未然防止、早期発見、早期対応や不登校ゼロを目指した取組	A	・健康観察カードを活用し、検温を中心に家庭における児童の健康観察を徹底した。 ・マスクの着用や手洗い、教室に入る前の手指消毒、換気など、教職員で3密にならない環境を整えるとともに児童への指導を行った。 ・給食の前には手洗い・手指消毒をし、食べるときには席を離れて前を向いて黙食をするよう指導を行った。 ・学校防災計画の見直しや、防災訓練の工夫改善を行った。 ・アンケート結果から児童では92%、保護者では97%の「学校に楽しく通っている」という肯定的な回答があった。また、生活指導上の問題解決や未然防止については、保護者から96%の肯定的な回答があった。教職員の明るい笑顔や言葉掛けをもとに、いじめアンケートや日々の見取り等が活用できていることが良い影響を与えていると考えられる。来年度も気になる児童の様子を職員間で交流しながら全職員で共通理解を図り、児童の悩みや訴え等の早期発見並びに問題行動や不登校への即対応に努めていきたい。
教育課程	保護者・地域住民との連携	○学校運営協議会「コミュニティ・スクール春日部 かすかべっ子はぐくみたい」の運用による地域とともにある学校づくりの推進(ふるさと学を含む) ○あいさつ運動や基本的な生活習慣の確立 ○家庭学習習慣や家庭教育の充実を図る取組	A	・アンケートのAとBの肯定的な回答について、児童では、「授業中に『わかった・できた』と感じられますか。」「友だちと仲よく生活していますか。」の2項目が95%以上であった。保護者では、「学校は、地域とともに学校づくりを進め、教育の充実に努めている」という回答が97%と高いものとなった。昨年同様、コロナ禍ではあるが、川活動や町探検など、地域での学習活動を積極的に実施した。また、保護者や地域の方に、ゲストティーチャーや読み聞かせ、登下校の見守りなどの学校での活動にご協力いただいた。この他、「子どもは、楽しく学校に通っている。」も97%で、アンケート15項目中、6項目が95%の高評価であった。 ・今年度も地区懇談会は、中止となった。しかし、10月にPTA人權講演会や情報モラル学習会が開催でき、保護者と教職員、児童が同じテーマで学習できる良い機会となった。 ・児童アンケートから「自分からあいさつをしているか」の回答では、昨年に比べ6%減った。今年度は、「学校、家庭、地域で」という言葉を付け加えたことから、自己評価が低くなっているとも考えられる。しかし、今年度は児童会が中心となり、始業前の時間に各教室を回ったり、登校時に玄関のところで地区ごとにあいさつができていたか確認しグラフに表したりすることができた。また、児童朝会では「挨拶」の漢字の意味について紹介し、あいさつであふれる学校にしたいと児童が啓発するなど、主体的な取り組みが活発にできた。来年度も継続して、児童自ら発信できる取り組みを進めていきたい。 ・保護者アンケートで特に低評価だったのが、家庭学習と家庭読書についての項目である。児童アンケートでも「自分から進んで読書をしているか」は、7%減った。昨年度は家庭で過ごす機会が増え、意欲が低下していることが考えられたが、今年度も引き続き低い評価であった。基礎基本の確実な定着を図るとともに、授業中や家庭学習における自学・自走できる力を育成することを目指して、取り組んでいきたい。そして、学習の定着(時間、質、タイミング)も含め、今以上に保護者の方との連携(ぐんぐんカードなど)を図っていく。
教育課程	学習指導	○新学習システム・特別支援教育支援員などの加配教員と連携し、国・算における同室複数指導体制による安心して学べる環境の確立 ○のびのび教室などでの個別指導による確かな学力の保障	B	・児童アンケートで「先生たちはわかりやすく教えてくれるか」は、Aが66%であるが、「授業中に『わかった・できた』と実感できたか」と感じられますか」は、Aが50%にとどまっている。受動的には学べているが、主体的には学べておらず、実感の伴いにくい授業設計になっているのかもしれない。学んだ知識を使って課題を解決していく指導過程の工夫が必要である。「学習が分かりにくいときに、先生にたずねやすいですか」については、学習方法を教師から教えてもらうばかりでなく、できるだけ自ら学ぶ形態へと変換して行っているため、減少していると考えられる。AとBを合わせると、微増なので、このままの取り組みを続け、仲間とともに主体的に課題解決に取り組む授業設計を模索していきたい。 ・のびのび教室については、延べ人数を記録できておらず確認できないが、低学年を中心に参加し、高学年も決まった児童が数回活用していた。個別指導後は、できたことや分かったことをもとに各教室での学習に取り組んでいた。

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
○コロナ対策は、地域の感染状況に応じて機敏に対応されており、不安を払拭している。 ○感染予防対策を徹底し、限られた中で教育活動を実施されていたと思う。今後も引き続き頑張っていただきたい。 ○「学校に楽しく通っている」が90%以上の肯定的な回答をうれしく思う。今、されている事を継続され、子どもたちにとって更に楽しい学校になる事を切に願う。先生方と子どもたちの関係が深まることにより、子ども一人一人の理解を深化される事を希望する。 ○いろいろな先生が子どもを見てくれているのでありがたい。そういう点から学校は安心できる場所であると思う。結果にもあるように「学校が楽しい」ということが一番大事である。 ○子どもが家で学校の様子を話す割合も高く、保護者が学校と相談しやすい関係にあるなど、いじめの初期段階の把握が出来るように思う。初期把握が出来れば、組織的に対策をしていただきたい。
○地域との連携に対して高評価であり、大変嬉しく思う。 ○学校と保護者・地域との連携を深化させていく事は、とても大切であると思う。この観点から考えると、学校は色々工夫をされ地域との関係をより深めようとされる姿勢がよく理解できる。 ・地域の情報を幅広く地域の方から教わったり、体験したりしての活発な活動を今後も継続して欲しい。 ・挨拶は人が人間として社会生活をしていく上での基本であり、望ましい活動である。下校時など会った時の元気な挨拶は、実に嬉しい。 ・「挨拶」については、習慣化されていないのかもしれない。子どもが朝起床した時、家族は挨拶しているのでしょうか。学校も十分な取組をされている。しかし、なぜなのかという点から考える事も一案ではないでしょうか。 ・児童の挨拶に対する評価が下がったことについては、評価基準を厳しくしたのか、挨拶が出来ていないのか原因の確認が大事である。地域としては、挨拶は変わらず出来ていると評価する。 ・地域によると思うが、朝の挨拶はきちんとできている。但し、知らない人には声が小さいので自信がないのかもしれない。誰にでも挨拶できるように、大人が手本となり、声かけをしていく事が必要である。「春日部小だより」に書かれていた震災集会で「友だちや地域のひとと仲良くなっておくこと」は挨拶につながると思う。 ・家庭学習習慣や家庭教育の充実、核家族化の下、実に難しい条件下にあるが、その習慣化に粘り強く努めて欲しい。宿題の中にこの習慣づけの要素を含めてはどうでしょうか。 ・読書については、出前はるべ文庫がきっかけになるのであれば、更に拡充する。 ・「進んで読書」が難しいのかもしれないが、今年度は読書マイスターに認定される児童が多く、学校でも工夫されているように感じる。はるべ文庫を、小学校に貸出展示しているのは良い取組である。 ・タブレットで電子書籍を取り入れれば読む子が増えそうなので試していただきたい。 ・読書については、すべての基本であると考えています。活字離れがあるので、基礎・基本を構成するものであると考えます。いろいろと難しいと思いますが、策を具体的にお願います。 ・近年、何か児童生徒が不祥事を起こすと、教育委員会や学校が陳謝する例を見ます。教育機関が成長の全ての責任を負っているかと思える。もう少し保護者としての認識を高める対策も必要ではないでしょうか。
○先生方は、授業改善を通して子どもたちに確かな学力、生きる力の定着に努力されていると思う。 ○先生方が丁寧に指導されているのがよく分かる。子どもたちは前向きに頑張ろうとしているので、その気持ちを大切にしながら進めてもらいたい。 ・高学年の複数の先生による学習は、高い効果が期待出来る。授業参観では、算数は2人でも大変な様子であった。特に算数は、基礎からの積み上げなので、援助が必要だと思う。先生方の負担軽減の観点からも必要ならば、ボランティアの追加もしたらと思う。 ・子ども自身が今日の授業課題に対してどのようにすれば分かるようになるか、どの点に分からないのか、まわりの子どもたちと一緒に考えていく事が大切であると思う。 ・アンケートの結果から、主体的に自ら学ぶ習慣づくりが重要と考える。 ・分からないことをそのままにせず、のびのび教室で自信をつけられているので、今後も続けていって欲しい。 ・のびのび教室は、児童の主体性や興味の一つの指標と考える。更なる指導に期待する。 ・先生と保護者が常に連絡を取り、子どもの様子を把握することも大切である。

	指導方法の工夫改善	<p>○アセスメントをもとにした個別のニーズに対応する授業のユニバーサルデザイン化を活かした授業改善</p> <p>○主体的に学ぶための工夫(ペアワークの課題の明確化、思考ツールの活用、友だちに意見の書き込み、ふりかえりの目的の明確化)による深い学びの実現</p> <p>○外国語教育、プログラミング教育、情報教育の充実を図る取組</p>	B	<p>・算数科のレディネスを参考にして、一人一人の学習前の理解度をもとに授業設計が行えた。また、児童の実態に応じて、ノートに書く量を軽減し、授業に集中して取り組める環境を整えたり、「個人で」「小集団で」「タブレットで」「教師と」など自分で学び方を選択させ、個別最適化を目指した授業を行ったりした。</p> <p>・思考ツールについては、上手く活用できず、授業の思考場面で教師がまとめてしまい、子どもに再度考えさせることができないことも多かった。今後、思考ツールの活用を促進するために、学んだ内容を言語化させることや汎用性を持たせるために話し合う活動を意図的に取り入れていきたい。</p> <p>・外国語では、学年に応じて聞く、話す、書く活動を積極的に取り入れ、外国語に慣れ親しんだり、コミュニケーションをとうろうとしたりした。</p> <p>・プログラミング教育では、年間カリキュラムをもとに計画的に実施した。また、情報モラル講習会を今年度も実施し、情報の取り扱いについて学んだ。その結果、保護者アンケートの情報モラル指導について、AとBを合わせた肯定的評価が91%であった。</p>
課題教育	特別支援教育	<p>○特別な支援を要する児童に対する共通理解・適切な教育支援・啓発の推進</p> <p>○認定こども園・春日中学校・こども発達支援センター等の専門機関等との連携</p>	B	<p>・特別支援コーディネーターと担当が普段からこまめに情報交換し、児童の状況の把握に努めた。</p> <p>・月毎に、特に支援を要する児童をしぼり、個に応じた支援の方法を検討して実行した。話し合った内容を職員会議で報告し、共通理解を図った。翌月には、支援が適切だったかを振り返り、その後の支援につなげた。</p> <p>・こども園の巡回相談に参加し、支援を考えるのに必要な情報交換ができた。</p> <p>・「SCに相談したい。発達検査を受けたい。」など、保護者の希望に合わせて専門機関の紹介がスムーズにできた。</p>
	人権教育	<p>○互いの違いやよさを認め合う温かい人間関係や信頼関係を育む学校・学級づくり</p> <p>○「特別の教科道徳」をはじめ、全教育課程を通じた、規範意識や人権尊重の意識の育成</p>	B	<p>・終わりの会で「いい所見つけ」や「ほめほめシャワー」等に取り組み、お互いの良さを認め合う場面を設けた。</p> <p>・すべての学年でジェンダー平等教育の授業を実施した。学習の積み重ねによって、ジェンダーについて敏感な視点を持つ児童が育ってきた。また、性にとらわれない自分らしさを表現する児童が少しずつ増えてきた。</p> <p>・6年生の総合的な学習の時間で行う人権学習の内容について全職員が理解し、そこにつながるように各学年の人権教育を進めていく必要がある。そのために、来年度は年度当初に人権の研修を行う。</p>
<p>※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育</p> <p>※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)</p>				
領域		観点例		
学校運営		学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等		
教育課程		学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等		
課題教育		特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等		
※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善				
<p>・昨年度に引き続き、危機管理として、新型コロナウイルス感染拡大防止・熱中症対策・不審者対策・防災体制の強化・いじめ防止・不登校ゼロを目指して取り組んだ。いずれの課題も重大な事故や事案に発展することなく対応することができた。今後も、子どもたちにとって安心・安全な学びの場を守っていききたい。</p> <p>・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の運用2年目として、地域とともにある学校づくり・学校を核にした地域づくりを推進する中で、登下校時の見守り・本の読み聞かせボランティア・各種ゲストティーチャー等のサポートスタッフ登録、ふるさと学として、竹田川での川活動・町探検・丹波乗・黒枝豆の収穫体験・名人鉄人に弟子入り・町の幸福論・花づくりプロに学ぶ学習等を昨年度より積極的に実施した。アートフェスタは2年連続で中止になったが、直前まで準備を進め校内作品展として児童が作品を鑑賞した。コロナ禍のため学校行事の縮小や中止を余儀なくされ、授業を直接参観していただく機会は限られてしまったが、児童の安全を最優先するために適切であったとの評価を受けた。今後も状況に応じて臨機応変な判断をしながらも、積極的な学習活動の展開と情報発信に努めていく。</p> <p>・学校運営協議会の組織再編を行うと共に、昨年度と本年度に作成したリーフレットを基に、地域学校協働活動推進員及び学校支援コーディネーターと連携して、学校教育の充実のための相互協力・支援体制、双方向の働きかけを一層発展させるように取り組む。</p> <p>・算数科を中心にユニバーサルデザイン化に基づく授業づくりやタブレット端末等のICT活用に取り組んだ。児童は落ち着いて学びに向かう姿勢が育っている。しかし、主体的・対話的で深い学びの実現にはまだ十分に至っておらず、学力の定着と自学自走できる自立した学びの力を育成することに関して課題が残っている。学校での確かな学力を保障する授業づくりを目指し、家庭・地域の教育との連携強化を継続的に図っていく。</p> <p>・教育課程編成に当たっては、兵庫型学習システムによる高学年での教科担任制の導入を試み、各教科の指導の充実と中学校へのスムーズな接続を目指す。</p> <p>・課題教育については、専門機関と連携した個別の教育的ニーズに応じた特別支援教育や共生社会を目指すインクルーシブ教育、ジェンダー平等教育を含めた互いの違いやよさを尊重し合える人権教育の取組をさら推進していく。</p>				
令和4年3月1日 学校名 丹波市立春日部小学校 校長名 上月 明生 印				

<p>○指導方法の工夫改善をいろいろと工夫されていると思う。</p> <p>・思考ツールを使っているだけでも驚きだ。ツール説明～やって見せ～実施～評価(ほめる)の繰り返しと考える。</p> <p>・算数の段階的ワークシートの使用は、大変な労力を要するが、効果の高い方策と思う。</p> <p>・主体的に学ぶことは、望ましい最終目標です。全ての教科での実現は難しいが、各教科の基礎内容は理解するように各教師の特徴を出して欲しい。</p> <p>・外国語教育・情報教育は入り口が大事です。楽しさや興味が継続する状況作りを期待する。</p> <p>・今後、更に国際化の進行が予測されるので、英語に深く興味を持つように努めて欲しい。</p> <p>○情報の取り扱いについては、肯定的評価が90%以上あり、先生方の取組の成果であると思う。</p> <p>・プログラミング教育については、子どもたちの確かな学力などに繋がるものと思う。</p> <p>・情報機器の活用を積極的に進められており、望ましい。その一方、娯乐的なものへの依存症にも注意を払っていただきたい。</p>
<p>○教職員が一丸となって、子ども達の実態を把握し適切に支援できている。保護者が専門機関に相談しやすいよう声をされていると感じる。</p> <p>○特別支援教育は、その兆候を早く把握することが大切であるが、保護者と学校との関係は相談しやすい関係にあり、望ましい。そして、問題の共有化や専門家との相談など前向きな対策を、今後も進めて欲しい。</p> <p>○校内だけでなく、各関係機関との連携が出来ていて評価出来る。</p> <p>・特別支援教育を受けている児童が、明るく学校に通え、偏見を持たれることがないようにして欲しい。</p> <p>・評価がBとなっているのはなぜでしょうか。しっかりと取組がなされていると思う。何が課題で今後の方策は何であるのかを示していただくとより理解ができると思う。</p>
<p>○人権教育を深く継続されており、望ましい。</p> <p>○終わりの会で実施されていて、明日につながる良い取り組みだ。</p> <p>・いい所見つけは自己肯定感につながる「認める」「認められる」心の育成を大切にしたい。</p> <p>・児童が互いに長所を認識し合うことは素晴らしい。その反面、人間的・社会的にも許されない行為についても、明確に教えて欲しい。</p> <p>・昔と違って、今の子どもたちはジェンダー平等の意識が高い。SDGsにも掲げられているように未来を担う子どもたちにも身近であることを考え、一人一人の人権を尊重する意識を高めて欲しい。</p> <p>・低学年からのジェンダー教育は、成果が大きいと考える。</p> <p>・人権教育は、地域と連携するメニューもあるとよいと思う。</p> <p>・先生方の取組により、子どもたちの様子に変化がある事が理解できた。何かこの課題に対して「見える化」ができないでしょうか。</p>
<p>自己評価の実施方法についての評価</p>
<p>○細かにアンケートを分析し、適切に評価されていると思う。</p> <p>○概ね実施方法についてはいいと思う。</p> <p>○アンケート結果に基づく自己評価自体は良い方法だと思う。評価委員の立場からは、その課題に対する結果の評価はなかなか難しい。しかし、課題に対する対策については細かく記載され、その成果も想像出来る。</p> <p>・アンケート内容についてもう少し掘り下げて質問することにより、新たな課題や方策が分かるかもしれません。</p>
<p>学校関係者評価のまとめ</p>
<p>・保護者と児童アンケートの項目を全体的に見直し、項目を追加したり整理したりした。新設した項目と昨年度との比較で5%以上の差があった項目についての考察と教育反省を基に、各評価項目の達成状況について自己評価をした。数値化して評価しにくい評価項目もあり、客観的な評価と言えるかどうか分からないが、自己評価の結果を概ね肯定的に評価していただいた。</p> <p>・コロナ禍により計画していたことが十分実施できていなかったり、オープンスクール等で授業参観していただいたりする機会が少なかったりしたため、学校関係者評価が難しい面もあったが、次年度に向けた意見や要望をたくさん聞くことができたので、参考にして更なる改善に取り組みたいです。</p>